



古庄 信一郎 議員

古庄 志免の水道事業は上水道基本計画のシミュレーションより給水人口は減り、企業団からの受水は計画通りで町自己水源は減っている。一方、県は福北導水構想を約200億円の巨大プロジェクトとして2006年度事業着手をしようとしているがどう考えるか。

金格差が大きなネック。そのあたりが整理されれば合理化が図られる。協議をして行く必要がある。

桜丘下水道の早期連結を

早期連結を

町長 安心のために保険をかける意味もあるが引き受ければ負担がかかる。協議会で議論を進めたい。

古庄 地域と多くの問題課題はあるだろうが整備に努力し接続可能となった。供用開始に向け誠意と熱意で努力すべき。

町長 災害時におけるライフライン確保の一つとして合意され少なからず影響を受ける。大半の町は水余り状態で、水道料金値上げへの影響他非常に関心がある。

古庄 水道事業の新たな取組みの研究を要請していたが、群馬県太田市、福島県三春町では維持管理、水道会計、料金事務の委託を行い8%、35%、2億、3億のコスト削減を実現。栃木県の益子、芳賀、市貝町は水道事業を合体し企業団で運営している。広域合体他、将来に向け研究すべき。

町長 一番の心配は今の処理場がいつ機能不全を起こすか分からない。厳しい状況で、地域の皆様とよく協議をし合意形成を図り、早期つなぎ込みに努力したい。

古庄 地震対策として県が考えるならば「維持管理も含め県の事業としてやるべき」と

町長 自治体間の料



熊本 廣議員

熊本 今後の地域農業の志免町の具体的な目標は。

町長 地域の皆様方に理解を得、共存共栄相互協力ができて、農業が継続できる環境づくりをし、都市近郊型農業の存在の確保にむけ努力する。

熊本 市街化調整区域の対応は。

町長 農業の持つ多面性機能の発揮、農地政策、農業政策等も今後考えなければと思う。

熊本 集落内の農地、農作業、農業機械等共同利用については。

地域振興課長

町長 農業の持つ多面的な機能に期待をし

17年3月新たな食料・農業・農村基本計画が見直され、18年度には法改正、19年度に実施、その中に価格政策への転換で、戦後の農政を根本から直す。最近、町の状況も、機械の共同購入などの相談もあり今後調査し中身を検証、志免町独自で支援検討を行いたい。

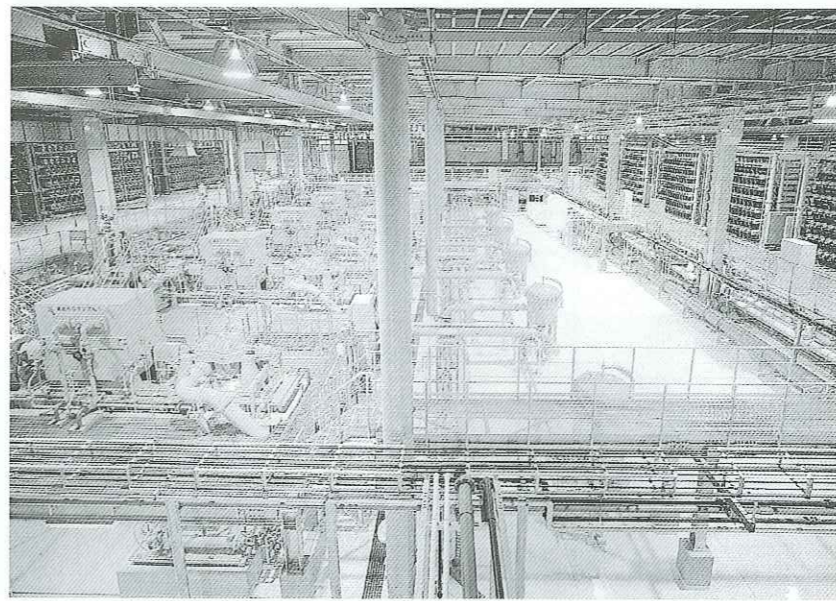
農業従事者の高齢化等のいろいろな状況を把握し、意見等も聞きながら考えたい。現状は非常に厳しい中、農地が減少、農業が衰退して行く中でそれに歯止めをかける方法、農業を守り、農業後継者の育成等が大きな課題である。農地法等もかなり緩和されて来たところで、農業委員会あるいは行政とが一緒になり、農地の流動化と荒れた農地をなくし、特産品が出来る取り組みをしていく。

食料・農業・農村の基本計画と今後の施策と方針は



写真

食料自給率向上へ



写真

海の中道奈多海水淡水化センター

水道料金値上げか？ 福北導水構想は全て県の責任事業でやるべき